

三重県四日市市桜地区における 「地域のWeb コミュニティ」の構築と教育利用

天野 昌和*・須曾野仁志**

地域の教育力を高めるための有効な手段の1つとして、インターネットの利用が考えられる。そのためにはインターネットを単なる情報収集ツールとしてだけでなく、情報発信及びコミュニケーションツールとして活用する必要がある。本研究では、「桜 Web コミュニティ」構築の実践を通して、地域の Web コミュニティの構築への具体的な道筋を模索し、現状と今後の課題を検討した。Web コミュニティの活動として、地域住民対象のホームページ作成講座において中学生ボランティアがアシスタントとして協力したり、総合的な学習において地域サークルが協力し、学校の支援を進めてきた。

キーワード：Web コミュニティ 地域の教育力 地域づくり BBS 掲示板 総合的な学習 地域との連携 中学生ボランティア ホームページ作成講座

1 はじめに

現在、全国的に家庭や地域社会の教育力の低下による教師の指導力の向上だけでは解決しない生徒の荒れが深刻化しつつある事例が多く報告されている。問題の解決のためには、地域と学校との繋がりを強化し、地域社会の教育力を向上させなければならない。しかし、従来の手法だけではなかなか問題解決の糸口が見つからない。

そこで、地域の人々がもっと気軽に参加でき交流できる場として、Web ページの利用ができないかと考えた。ホームページとBBS掲示板を組み合わせることで、学校や地域の誰もが気軽に交流できる場が設定でき、地域内の交流を活性化し、地域と学校の繋がりが地域教育力の高めていくことを目指した。

地域社会において、人々はボランティア、環境保全などの文化活動やスポーツ及び多様な趣味のサークル活動をしている。しかし、地域によってはそれらの横の繋がりは希薄であり、その存在すら知らない人も多い。そこで、生徒、保護者、教師、地域住民、学校、PTA など、

個人的なものも団体も含めて、地域のサークルや有志の Web ページをリンクメニューでまとめ、BBS 掲示板等のコミュニケーションツールを設置し、Web 上で交流をはかろうとするものが地域の Web コミュニティである。

ここで述べる「地域」とは中学校区を指し、その中には、学校のホームページも含まれると考える。本研究で、図1に示した構想図は桜中学校区でモデル化したものである。本実践では、地域の Web ページを「桜 Web コミュニティ」と名づけて実践をはじめた。

桜中学校の校区の場合は、地域の Web ページである「桜 Web コミュニティ」、学校とPTA のページ、校内 Web ページの3つのサイトから構成される。

「桜 Web コミュニティ」は校区に居住している人々や地域自主サークルの Web ページをリンクメニューでまとめ、双方向コミュニケーションツールとしてBBS 掲示板を設置したものである。

校内 Web ページは学校内に設置したサーバーに、生徒が自作した Web ページをアップしたもので、校内におけるコミュニケーションの促進を図るものであるが、現在機器を設置している段階である。また将来的には校内ページの発

* 四日市市立桜中学校
** 三重大学教育学部附属教育実践総合センター

信も考えている。ただし、学校の生の情報であるため、校内ページの発信はパスワードを設置して、時間を制限し、今後対象を保護者や生徒、教師に限りたい。

学校とPTAのWebページは地域内に学校の情報を公開し、BBS掲示板等で相互交流を図るものである。

これらのWebページとBBS掲示板の相互作用により、地域の人々が気軽にWeb上で語り合い、刺激と交流の機会を持てるようになれば、子供たちも、生き方、モラル、文化活動などについての向上心を持つきっかけとなるだろう。そして地域と学校、地域内での人々の繋がりが

強化されていくものとする。

本研究では、天野が勤務する四日市市立桜中学校の校区において、Webコミュニティづくりを推進した。本報告では、その「桜Webコミュニティ」の具体的な構築過程と現状、及びその教育利用の可能性について報告する。

2 「桜Webコミュニティ」構築の経緯と概要

(1) 試作ページ段階

「桜Webコミュニティ」構想を立案したのは、1999年12月から2000年1月にかけてで

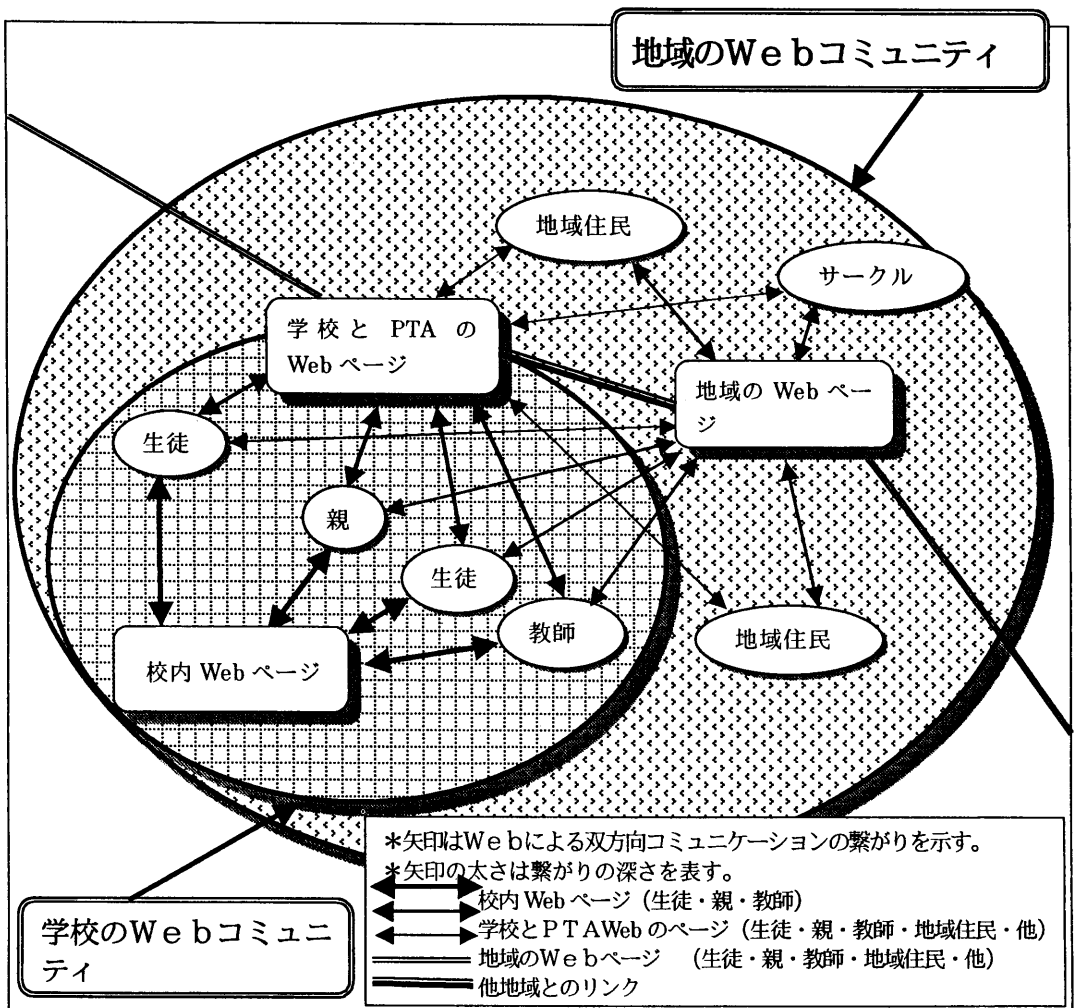


図1 地域のWebコミュニティの構想

ある。

学校を起点として地域のWebコミュニティを構築していくためには、事前に人と人との繋がりをある程度構築していくことが必要となる。そこで、担当者が学校の職員、PTA、地域の市民センターである桜地区市民センター（以後桜地区市民センターとする）の手順で地域のWebコミュニティの一環としての「桜Webコミュニティ」の必要性についての情宣活動をした。

「桜Webコミュニティ」への参加者がまだ存在しない段階でページを試作することには困難である。しかし、ページの試作なしには、「桜Webコミュニティ」への参加者を募ることは困難である。そこで、最低限のページだけを試作して「桜Webコミュニティ」についての説明と参加の申し込み方法及び、試作のWebページを掲載することとした。

参加募集のWebページを作成するにあたっては、次の点を考慮した。

- ・各団体のWebページは無料でつくれる。
- ・1年間をめどにして、利用状況に応じてその後のあり方を考える。
- ・Webページを持ちたいサークルはあると予想されるが、Webページを自作できる数は少ないと予測し、作成できない場合は担当でWebページの作成を代行する。
- ・Webページ自作したいが作り方がわからない人のために、桜中学校でホームページ作成講座を開き、Webページの作成方法を指導する。

ホームページ作成講座はあらかじめその作品を「桜Webコミュニティ」に載せることを条件にして参加者を公募し、2000年2月の第1・第3土曜日に実施した。事前に校内で宣伝したこともあり、当日は、保護者、生徒それぞれ20名ほどが受講し、試作のページ作りのめどもたった。

次に地域の「桜Webコミュニティ」に学校との関わりを持たせるために、「桜Webコミュニティ」への参加やWebページ作成の受け付け場所を桜中学校として職員が窓口となり、Webページの作成やアップロードする場とし

て桜中学校のパソコン室を利用するようにした。

試作のページや学校との関わりも整理できたので、次は地域に対する募集活動である。働きかけはPTAと地区市民センターに対して行った。PTAに対しては役員会に参加して、口コミでの協力を要請した。つづいて、担当者が桜地区市民センターに出向き、「桜Webコミュニティ」について説明をし、説明プリントの配布を依頼した。その結果、桜地区市民センターを活動場所とするいくつかのサークルから、「桜Webコミュニティ」に対する参加の希望が寄せられ、Webページ作成や手直しのために地域のサークルの人々学校を訪れるようになった。

(2) 地区市民センターとの協力とホームページ作成講座

5月には、再度桜地区市民センターと打ち合わせを持ち、「桜Webコミュニティ」の推進と管理を学校単独から市民センターとの共同管理へと徐々に移行していくことを確認した。

7月下旬から8月にかけて、桜地区市民センターとの協議で、「桜Webコミュニティ」への地域住民の自主的な参加を推進していくことを再確認し、そのための方策として以下の施策を決定し実施した。

- ① ホームページ作成講座を毎月1回、桜地区市民センターや桜中学校で実施する。講座の定員は18名とし、参加者は地域内からを公募する。講座の内容はWordを使用してWebページを作成するというものである。
- ② ホームページ作成講座の成果としてのWebページは、作成者の同意を得た上で、順次「桜Webコミュニティ」に加えていく。
- ③ 桜地区市民センター発行の地域広報を通じて、ホームページ作成講座や「桜Webコミュニティ」への参加を呼びかける。
- ④ 混乱を避けるために、当面団体のWebページの募集を優先し、個人のWebページはホームページ作成講座受講者と学生のものだけに限定する。
- ⑤ 「桜Webコミュニティ」へのWebページのアップロードは桜中学校と桜地区市民セン

ターからとし、それを可能とするのために桜地区市民センターにパソコンを1台設置し、インターネット接続する（8月10日設置）。

- ⑥ 「桜 Web コミュニティ」の管理・運営は、当面市民センターと桜中学校側とで共同管理していくが、「桜 Web コミュニティ」への参加者がある程度まとまってきた段階で参加者による管理委員会を設置する。

- ⑦ 「桜 Web コミュニティ」の構築がある程度進み、運営・組織がしっかりと確立するまでは、検索エンジンに登録しない。

このようにして、桜地区市民センターや桜中学校を会場としてホームページ作成講座を開催し、成果としての作品を「桜 Web コミュニティ」に加えていった。

(3) 自治会のページとして

9月になり、「桜 Web コミュニティ」内の Web ページも徐々に増え、今後参加者が増えつづけていく場合、参加者で「桜 Web コミュニティ」の管理委員会を組織することが困難になると予測できた。そこでスムーズに運営する必要から地域の自治会による管理という形をとることにし、自治会に働きかけた。10月5日には、地区連合自治会長同席のもとで正式に桜 Web コミュニティの開設式を行い、同時に規約の作成にかかった。規約は管理・運営に最低必要な事項だけにとどめ、「桜 Web コミュニティ」を地域の人々が実質的に運営していけるようになった時点で、細則を決めていけるように考慮した。11月末には、「桜 Web コミュニティ管理規約」が地区連合自治会で承認され、名実ともに地域の Web ページとしての体裁を整えつつある。

「桜 Web コミュニティ」内には、団体や個人のもの合わせて100以上の Web ページが登録されている。一例を示すと、トップページ（図2）及び各リンクメニューと桜地区市民センター、地域の団体（各自治会、桜ボランティア協会、桜ダンス愛好会、桜郷土史研究会（図3）、子育てサークルさくらんぼキッズ、桜台いきいき塾、桜英会話サークル、桜地区ソフト

ボール同好会、桜地区民生児童協議会、桜地区同和教育推進協議会、桜花台たのし会、ささ菊桜会、桜ボランティア協会、桜みどりの少年隊、のびっこ、桜ニューキッズ、桜ミニバスケットチームなど）、学生のページ、めだかの学校（ビオトープ）とホームページ講座の作品等がある。



図2 「桜 Web コミュニティ」トップページ

また、大人のページだけではなく学生のページも作成されつつあり（11月14日）、その中には試用中のBBS掲示板（11月14日）、リレー小説文庫（11月16日）などを設置している。BBS掲示板も設置されており、情報交換や授業に利用されている。²⁾

アクセス数も12月11日現在（カウンターを設置してから27日間）で1650件に達した。現在「桜 Web コミュニティ」は検索エンジンに未登録であるので、そのほとんどが地域の人々であると推測でき、地域の人々の関心も高まりつつあると考えられる。



図3 桜郷土史研究会の Web ページ

3 「桜 Web コミュニティ」の現状と課題

(1) ホームページ作成講座とボランティア指導員

ホームページ作成講座は現在も毎月1、2回のペースで実施しており、そこで作成したWebページを「桜 Web コミュニティ」に登録していくことを条件にして受講者を公募している。地域のサークルのWebコミュニティへの参加が一段落しており、現在はホームページ作成講座が「桜 Web コミュニティ」への参加者募集のための最も有効な方法となっている。

講座の開催場所は桜地区市民センターか桜中学校で実施し、桜地区市民センターで実施する場合は講師として須曽野がノート型パソコン18台を持参して講座を実施する。また桜中学校で実施する場合は桜中学校の職員がその指導にあたる。どちらの場合も、ホームページ作成講座の指導補助として、地域のボランティア指導員数名がホームページ講座の指導に協力しており、その登録数も毎回2・3人ずつ増加している。

また、桜中学校パソコン部の有志が中学生のボランティア指導員として毎回数名参加している。中学生のボランティア指導員として参加する中学生たちもホームページ作成講座への参加が地域作りにつながるという趣旨を理解した上で協力しており、講座の指導を通して、地域の人と触れ合うことを楽しみにしている生徒も多い。(表1)

表1 受講者と中学生ボランティアの感想

受講者の感想

相手が中学生だと、こちらでも気軽にわからないところを聞くことができる。とても丁寧に説明してくれるので、わかりやすい。

中学生ボランティアの感想(桜中学校パソコン部キャプテン)

はじめは、緊張したけれど、段々なれてくると教えることが楽しくなってきた。また、そのことが自分自身の勉強になる。

また、ホームページ作成講座参加者や「桜 Web コミュニティ」内にWebページを所持している人を対象にして、Webページの更新や改善を目的とした質問や実技指導を不定期に桜中学校で実施している。方法としては、メールや電話で「桜 Web コミュニティ」管理人に事前の予約をとり、状況に応じて実際に桜中学校や桜地区市民センターで実技指導をしたり、メールや電話で必要な技術情報を伝えるという形をとっている。この取り組みは、個々の「桜 Web コミュニティ」に参加している人々のホームページ作成技術の向上につながっている。(表2)

表2 不定期の実技指導受講者のメール

ありがとうございました。嬉しくて涙が出ました。
HPの知識など何も無かったのに、勇気付けお導き下さったこと、一つ一つ半角英数に訂正していただいた多大なるご苦労、いろいろ悩みを聞いていただいたご親切、さほど力もないのにボランティアにお誘い下さった優しい思いやり、あれやこれや、いっぺんに心の奥底から溢れ出てしまいました。
御陰様で、やっと此処まで来ることが出来ました。(以下略)

(2) 地域 Web コミュニティの管理・運営組織

桜地区連合自治会のもとに、桜 Web コミュニティ管理委員会が設置され、委員長には桜地区連合自治会長が就任した。また顧問3名と管理人5名が桜 Web コミュニティ管理委員会によって選考された。管理人とは、ホームページの手直しや転送を行い、掲示板のチェック等、実質的に桜 Web コミュニティの管理・運営にあたるものである。

管理人は、桜地区内に居住又は勤務する者で下記の条件を満たす人物ということを選考規準として選定した。

- ① 初期から Web コミュニティにたずさわっている。
- ② Web コミュニティ内に内容が豊富で桜 Web

コミュニティの趣旨からして意味のある Web ページを所持している。

- ③ Web コミュニティの趣旨に深く賛同を示している。
- ④ ある程度のホームページ作成の技量を有する。
- ⑤ Web コミュニティの発展に意欲がある。
- ⑥ 管理人には桜地区市民センターや桜中学校などの公共機関の代表を加える。

その結果、桜 Web コミュニティの管理人の構成は、桜地区市民センターから 1 名、桜中学校から 2 名そして Web コミュニティ内に Web ページを有するサークルから 2 名（郷土史会、桜いきいき塾から各 1 名）というメンバー構成となった。

桜 Web コミュニティ内に参加して Web ページを所持するためにの条件は現在のところ下記の規準である。

- ① 桜地区にその活動の基盤を有する構成人数 5 名以上の団体
- ② 桜地区にその活動の基盤を有する公共機関
- ③ 桜地区に居住又は通学する学生

なお、現在参加申請中のサークルとして、桜インターネットサークルがあり、ホームページ作成講座会場で会員募集のパンフレットを配布するなど、新しい動きもみられる。

(3) BBS 掲示板の総合的な学習での利用と地域のサークル（桜郷土史研究会）との連携

BBS 掲示板は桜中学校での運用実践で、こまめに管理することで、地域と学校を結ぶ前向きな意見交換の場として、その有効性は確認できた¹⁾。

しかし、それは中学校関係者もしくは中学校に関心を持つ個人という、限られたアクセス環境の中での結果であり、それをそのまま地域のページに設置すると地域内諸問題の言い合いの場になる可能性が危惧される。そこで、BBS 掲示板を試験的に学生のページに設置し、その運用の状態を確認しながら検討することとした。

12 月 8 日に桜中学校の 1 学年の総合学習（郷土学習）時に、調べ学習の多様な調査方法

のうちの 1 つとして、学校のパソコン室からインターネットを利用して、「桜 Web コミュニティ」内の桜郷土史研究会や中学生のページの地域を調べるなどの利用があった。その際、生徒たちは試験設置の BBS 掲示板を利用して、わからないことを質問し、それについて桜郷土史研究会のメンバーが返信するという形で利用した。桜郷土史研究会には教師側から、メールで生徒の質問に対する返答をしてもらえるように依頼し、その後も教師側と桜郷土史研究会が連携をとりながら BBS 掲示板で生徒の質問に答える態勢作りをした。（表 3）このような経緯で、BBS 掲示板に桜郷土史研究会から生徒の質問に対する返答が書き込まれた。（図 4）

その後も、生徒たちは学校や放課後に家庭から、総合学習の他にも選択授業などでも利用している。

BBS 掲示板の URL は以下の通りである。

<http://www3.yecc.gr.jp/~SAKURACOM/cgi-bin/notebook2new.cgi>



桜の名前の由来について 投稿者: プリンプリン 投稿日: 2100年12月01日(水)13時22分 返信

私達は総合学習で、桜の名前の由来について調べてるんですけどホームページにのってないので桜の名前の由来について教えてください。



桜郷土史研究会さん 投稿日: 2100年12月10日(日)14時09分 「桜」の地名由来について

地名の由来は、多くの場合「説」にたがいます。という確認がなかなか困難の多いのが現状です。さて、「桜」の由来は、今のところ2つの説があります。

由来その1「説1」
当会のHP/八 さいぎ塾の皆さんが「地名学」を先ずご参考にして下さい。そのページで分かるように、山上(やまじょう)の丘陵地の「桜」の美しさに、北畠満朝を魅了しました。今宵はとも想像できませんが、古来から明治時代まで、「桜」の名勝地として近郷に有名だったそうです。それで、誰もが認める「桜」の美しさを、所在地で、当地を自然と「桜」と呼ぶようになったという説。

由来その2
南北朝時代、桜地区は、伊勢神宮内宮の摂社である御旅(あまのり)神社の神領(神社の領地)でした。御旅(あまのり)神社は「桜宮」といいます。だからその神領を「桜宮」と呼んでいた。そのことから、「桜」が地名として残ったという説。
しかし、「桜宮」は当地ばかりでなく他所にも多岐ありました。それなのに「桜」の名を留める時は他所になく、ただ当地だけというのが不自然だといえるかもしれません。

ここで、それじゃあ「桜」はなんなんなんだ？と疑問が出てくるでしょう。

「桜」は、「桜」の音節に合ったものであると考えられます。明治時代の史料によくと、古くは「桜」の字を用い、「桜」と改め、明治の皇統を経て、明治8年旧名に直し「桜」と改称……とあります。

と書くことで、「桜」の字は横に置いて、あなたはこの二つの説のどちらの説を支持されますか？

図 4 総合学習に利用した BBS 掲示板

表3 桜郷土史研究会との連携

桜郷土史研究会への協力依頼メール（一部抜粋）

本日は、郷土史の方2人（服部さん・中根さん）に学校に来ていただき、総合学習で1年生の質問に答えていただきました。有難うございます。

さて、その子達とは別に同時刻にインターネットで郷土についてしらべていた子どもたちがわからないことがあるということで、桜Webコミュニティの掲示板に質問を書き込みました。

桜郷土史研究会からのメール（一部抜粋）

私にとって、生徒さんの質問に答える作業はとても楽しいひとときでした。

会長より伝言です。

生徒さんの質問を、電話や手紙でも受付けますので、その旨先生から生徒さんにお知らせ下さるようにとの事です。

(4) 学生のページとWeb上でのモラルの問題

「桜Webコミュニティ」に大人ばかりでなく、子どもたちの参加が進むことにより、異世代間の交流が可能となる。そこで、学校での学習成果と地域内の小・中・高校生の団体ないし個人のWebページの設置場所として学生のページを開設した。クラブや学習成果についてのWebページはいくつか出来たが、子どもたちの自主的につくる個人のページをこれからどのように増やしていくかが課題である。

最近、子どもたちが自分自身で作ったWebページを紹介するために、学校のBBS掲示板にリンクを貼り付ける事がある。また、子どもたちの中には「桜Webコミュニティ」からのリンクを希望して、自作のWebページのURLを送付してくることもある。審査のために、そういったWebページのリンクをたどると、多くの場合子どもたちが作ったとみられるWebページが互いにリンクしあっている。こういった既存の子どもたちのWebページにリンクを

張れると急速に学生のページ充実させることができる。

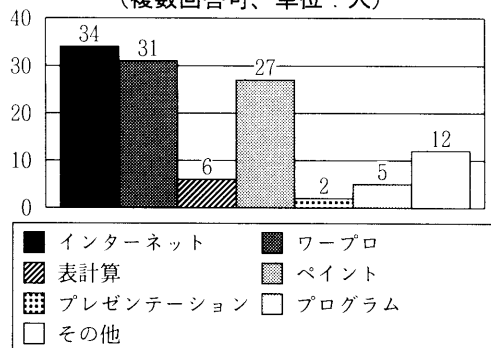
しかし、そのほとんどは、営利広告がある無料のWebページに設置されたものであり、現在の「桜Webコミュニティ」の趣旨からはずれるためにリンクさせることができない。また、それらは著作権、肖像権についての問題がある場合も多い。さらには個人のプライバシーを侵害している疑いのあるWebページもあり、付属のBBS掲示板、チャット等についてもその多くがほとんど管理されていないのが実情である。それらの、実態の全容を完全に把握する方法はないが、これを機に生徒のインターネットの利用状況とWeb上でのモラルを知るために、桜中学校生徒ホームページ委員（44名）を対象にアンケートを実施した。（図5）

これらの結果は、全校生徒約740人中の比較的インターネットに興味のある生徒44名の調査結果であるため、あくまで参考資料にしかなり得ない。しかし「桜Webコミュニティ」は中学校区をその範囲としているため、その構築の方向性を検討するためには必要な情報である。

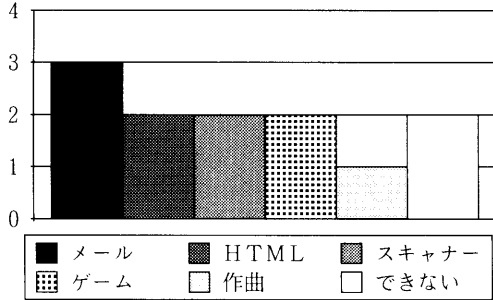
アンケート結果では、生徒の多くが何らかのアプリケーションを使用することができ、家庭でインターネットを使用できる環境にある。

Webページについては、自分で作成できない生徒が7割近くを占め、作成技術やそこに掲示板やチャットを設置することよりも内容が大切であるとする回答が多く、良識を感じた。

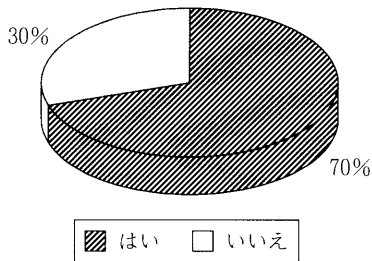
1 パソコンをどの程度あつかえますか
（複数回答可、単位：人）



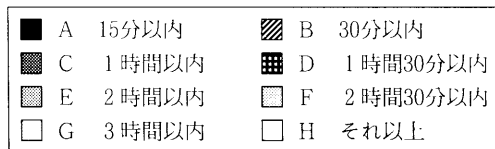
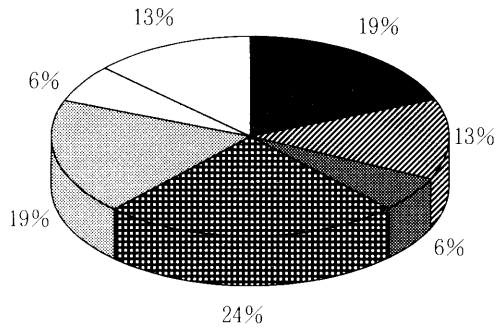
その他の内訳（複数回答可、単位：人）



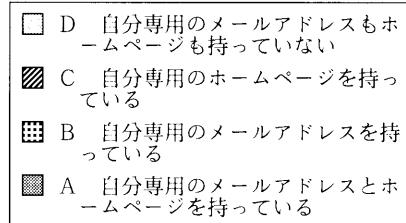
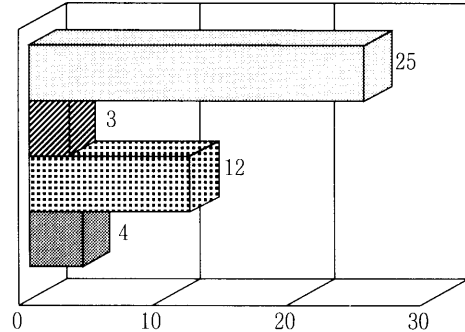
2 パソコンをインターネットに接続していますか



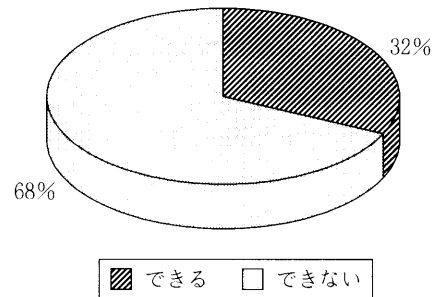
3 一日平均どのくらいインターネットをしますか



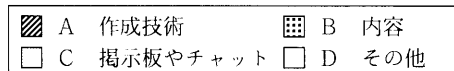
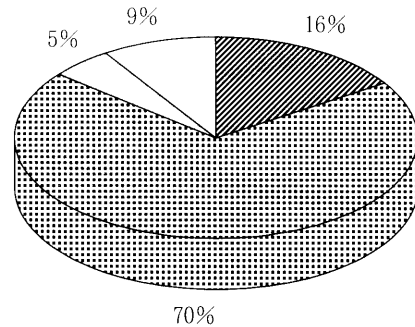
4 自分のメールアドレスやホームページを持っていますか



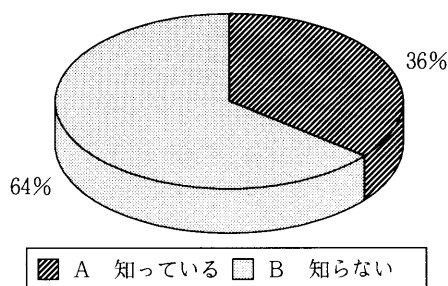
5 ホームページをつくることができます



6 ホームページづくりでは何が一番大切だと思いますか



7 インターネット上のモラルについて知っていますか



8 著作権・肖像権などについて知っていますか

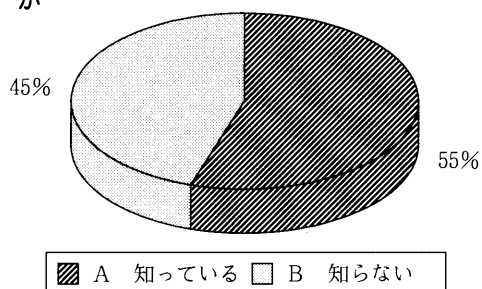


図5 アンケート（2000年12月5日実施）

また、インターネットを1日に1時間以上する生徒が62%、自分専用のメールかWebページのどちらかを所持する生徒が43%であるにも関わらず、インターネット上でのモラルを知らない生徒が64%、著作権・肖像権について知らない生徒が45%、であり多くの問題を含んでいる。

これらの問題に対する対策として以下の施策を検討し、実施しはじめたところである。

- ① 問題を含むWebページの作成者が明確なものについては、放置せずに指導する。
- ② 桜中学校の生徒ホームページ管理委員会を通じた指導をする。

校内生徒ホームページ管理委員会は表4で示すように校内の組織で、生徒による学校のWebページの作成や学校WebページのBBS掲示板の管理を行うものである。今後、委員会内でインターネット上でのモラルについての意見交流の活発化を図ることで問題の解決を目指したい。

- ③ 地域の子どもたちを対象とするホームページ講座の開催（2001年2月に予定）

Webページ作成の技術的な指導だけでなく、インターネット上のモラルについても講座の内容に加える。

- ④ 地域のWebコミュニティの意義について、講演会の実施（2001年1月に予定）

地域の自治会、サークルなどの団体（約80団体）の代表者を対象に実施する。

これらの対策のうち①～②の項目についてはすでに実施しているが、その後1週間ほどで、上述したような問題を含んでいるWebページの多くは、問題点の改善、もしくは削除されており、委員会の活動の成果も伺えた。

表4 校内生徒ホームページ管理委員会設立趣旨

校内生徒ホームページ委員会

1 趣旨

学校のホームページのアクセス数は3月の設置よりすでに、18000件近くとなり、掲示板にもすでに1500件ほどとなっている。これは学校のホームページを閲覧する人のうち12・3人に一人が掲示板になんらかの書きこみをしている勘定となる。

掲示板では、生徒、親、地域の人、教師の間で、意見の交流が充分に行われて、相互の理解も深まりつつある様子がわかる。そして現在掲示板の中では、生徒自身の手による自治（自主的な管理）が行われている。一例をあげると、過激な発言やマナーの悪い利用者に対して、他の生徒がたしなめたり、納得がいくまで論議がなされたりしているという様子がうかがえる。

しかし、現在の掲示板の利用者は3年生に多く、生徒自身の手による自主的な管理も、彼らが卒業すると同時に崩れ去る可能性もある。

また、学校のホームページも、教師がつくる部分と生徒がつくる部分とがある。生徒がつくる部分については、生徒たちの自主的な活動の中でホームページを作成させるべきであると考えられる。

2 募集方法

- ・各クラスで、趣旨を説明して募集する
- ・人数に制限なし

3 役割

①掲示板の管理

時々、掲示板をのぞいて、マナーの悪い書きこみやいたずら書き等を発見した場合に、注意をうながす書きこみをする。また、重大ないたずら等があった場合は、互いに連絡をとりあって対策を講じる。

②学校のホームページの作成

生徒がつくる部分について、担当の教師の指導をうけつつホームページを作り、更新する。

4 組織

①委員長、副委員長及び各学年の代表を選出する。

②随時召集するホームページ管理委員会は、委員長、副委員長及び各学年及び希望者が参加する。

③あくまで、自主的な活動を前提とするのので、一切の無理強いはいしない。

は急速に伸びつつあるが、まだインターネットを導入していない世帯も多いと推測される。

今後、Web を通じた地域内の交流をより深め、地域の教育力を高めるまでに至るには、「桜 Web コミュニティ」への参加者をさらに増やしていくことが必要である。現状では、BBS 掲示板は学生のページに試験運用中でありそれを介した地域内の交流は限定的なものであり、本研究の目的にはまだまだ到達していない。

それらの問題を解決していくための今後の研究課題としては、①学生も含めた若年層の管理人の発掘と育成、②BBS 掲示板の本格的運用の時期と条件、③民間の検索エンジンへの登録の是非、④地域内のインターネットの普及率のリサーチ、⑤桜 Web コミュニティの財政的自立のための条件と地域住民のコンセンサスづくり、などの検討と推進が必要であると考えられる。

これらの課題を研究し、解決していく中で、「桜 Web コミュニティ」が本当の意味での自立を達成していくことができると考える。

付 記

本研究は平成 12 年度科学研究費補助金（奨励研究（B））の援助を受けた。

「桜 Web コミュニティ」の URL は以下の通りである。

<http://www3.yecc.gr.jp/~SAKURACOM/sakura/index.htm>

参考・引用文献

- 1) 天野昌和・奥野穂・須曾野仁志 2000. 7. 8 : 「地域の教育力を高める Web コミュニティの構築」、日本教育工学会、JET2000 - 4
- 2) 天野昌和・須曾野仁志 2000. 1. 27 : 「三重県四日市市桜地区における「Web コミュニティ」の構築と現状」、日本科学教育学会、平成 12 年度第 4 回研究（第 3 部会：科学教育実践研究部会）

4 おわりに

「桜 Web コミュニティ」の組織的基盤も徐々に整備され、徐々に地域の人々と学校などの公共機関による自律的な運営の基礎ができ上がりつつある。また、須曾野による出前支援プロジェクトや地域のボランティア指導員、桜中学校パソコン部員有志によるボランティア指導員などの協力により、ホームページ作成講座も月 1・2 回のペースで定着してきた。

しかし、まだまだ「桜 Web コミュニティ」の存在が 1 万 8000 人の人口を持つ桜地区人々のごく一部にしか浸透していないという段階である。その原因として考えられるもので、地域の人々からの問い合わせで最も多いものは、民間の検索エンジンで検索しても「桜 Web コミュニティ」を探し出すことができない、ということである。また地域内のインターネット普及率